

# 2001年 事業報告書

特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター

経済的に貧しく、最低限の生活を維持する収入を得られない人々、就学の機会が与えられない子ども達に対して、生活向上、教育、福祉、医療などの支援を行い、これらの人々の自立を支えるとともに、人々との相互理解を促進するために、以下の事業を行った。

## <フィリピンでの国際協力>



(2) パヤタスごみ処分場での医療および職業訓練支援 (P.4~5)



(3) 山村サンイシロでの先住民支援(P.6)



(1) ミンダナオでの里親(通学)・給食支援 (P.2~3)

## <日本での国際理解&交流>



(4) 国際理解(開発)教育事業 (P.8)



(5) フェアトレード事業 (P.5,9)

スタディツアー、物資提供、カード交流(P.7)、事務局の報告(P.10)もお見逃し無く!

# ミンダナオでの支援活動

<ミンダナオの現状と課題> (南コタバト州ジェネラルサントス市)

ミンダナオ島の南部にあるジェネラルサントス市は人口32万人程の地方都市で、イスラム系武装勢力の影響を受ける地区にあり、約半数が貧困層だと言われている。一般に家は子沢山で、子どもが働くことで何とか生計を維持しているが、子ども達が十分な教育を受けないまま成人し、次の世代は更に貧困になるという悪循環にある。

この悪循環を断ち切るため、子ども達が正当な教育を受けられるように、里親(通学)支援と給食支援の二つの支援事業を行っている。



ジェネラルサントス

## 1 里親(通学)支援事業 (通年実施)

### 1) 実施内容

ジェネラルサントス周辺に住む貧しい家庭の子ども達が学校に通えるよう、学費・学用品・通学用衣類・交通費・医療費等を提供した。単にお金や物を提供するだけでなく、ソーシャルワーカーが、子ども達の家族を対象に、衛生や栄養改善など基本的な生活指導、職業・生活相談等を行った。また、子ども達の楽しみにしているクリスマスには、パヤタスで作ったサンタ姿のくまのぬいぐるみを贈った。



支援を受ける子どもの家族と住居

2) 実施形態 現地福祉法人 Love and Life Inc.(以下L&L)に事業委託して実施。

3) 従業者数 L&Lスタッフ5名、無償ボランティア5名

4) 受益対象者の範囲及び人数 貧困家庭の子ども120名とその家族

5) 支出額 1,503,142 円

事業委託費(現地への送金額) 1,478,142 円

現地からの既報告(2000年4月~9月)分 内訳	(1PHP(フィリピンペソ)=2.43円)
子ども達への支援(学費・学用品・制服等)	542,599円 (223,291.95PHP)
医療費	52,506円 (21,607.50PHP)
生活指導ミーティング	27,036円 (11,126.05PHP)
L&L人件費(ソーシャルワーカー、事務員等)	259,779円 (106,905.00PHP)
L&Lの運営費	103,886円 (42,751.60PHP)
合計	985,808円
残金<2002年1月以降に使用の見込み>	492,334円

その他の支出 クリスマスプレゼント代 25,000 円

6) 次年度への課題 重点的なケアが必要な子どもへの対応など、メリハリをつけた支援。

## 2. 給食支援事業 (通年実施)

### 1) 実施内容

少数民族の子ども達(3校,300名)を対象に、週一回、学校で給食を提供し、栄養状態や健康面の改善を図ると共に、就学意欲を高め、就学率の向上に結びつけた。

- 2) 実施校 P.Kindat 小学校 (PKES)  
Sarif Mucsin 小学校 (SMES)  
Bawing 小学校 (BES)

3) 実施形態 各学校に事業委託して実施。  
教師が、児童、父兄と協力して、調理、給仕を行う。

### 4) 各校の受益者数と実施回数

PKES 70名 20回(10月まで)

SMES 60名 17回(8月まで)

BES 174名 31回(12月まで)

(PKESの11月以降、SEMS,BESの9月以降は報告待ち)

### 5) 支出額

・事業委託費 120,931円 (50,000PHP)

内訳 PKES 25,105円 (10,380PHP) 2001/10月現在

SMES 37,319円 (15,430PHP) 2001/8月現在

BES 115,475円 (47,744PHP) 2001/8月現在

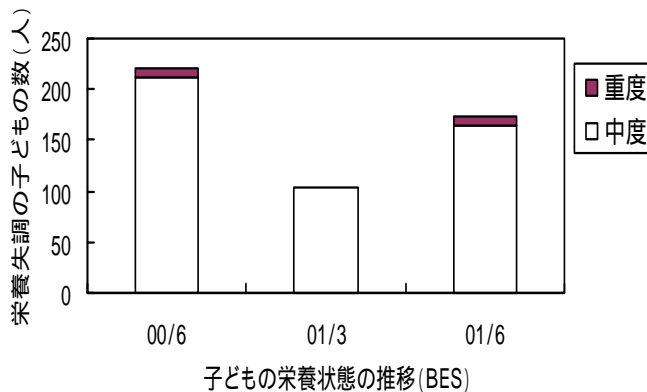
合計 177,899円 (一部2000年に渡した資金を使用)

### 6) 次年度への課題

2000年からの実施校とのコミュニケーションの向上



P.Kindat 小学校での給食風景



子どもの栄養状態の推移(BES)

2000年の支援により栄養状態が改善。4,5月は休校、6月に1年生の入学により、栄養失調児の数は増加したが、一年前よりは減少。

## 社会的に弱い立場にある人の側に立つ支援と平和

2000～2001年、ジェネラルサントス市はイスラム系武装勢力の影響を少なからず受けた。MILFやアブ サヤフによる爆弾テロや強盗、誘拐が何度かあり、2001年7月には、海に面した居住地の近くで、アブ サヤフの上級戦士とその仲間が逮捕された。

武装勢力が居住区に影響を与える背景の一つには、現地に住むイスラム系少数民族は、就職、教育など様々な分野で差別を受けており、「自分達は社会から必要が無いものと思われている」という差別感、劣等感を持っていることがある。

給食事業などICANのできる支援は限られるが、社会的に弱い立場にある人に焦点をあて、学校の先生や子ども達を勇気付けている。先生や住民の方々の協力のお陰で、週1回の給食で、子どもたちの就学率が上がり、その複数の異なる文化をもつ人々を学校という場所が結びつけ始めている。これらの人々が共に支援事業を分かち合うことは、お互いの理解を深め、共に尊重しあうという点で、大きな意味がある。

### <先生方のコメント>

「確かに危険な状態にあります。しかし、私たちには同国人、特に幼くて貧困な児童に対する社会的道義的な義務があります。皆さんの支援で、子ども達が学校に来てくれるようになれば、平和や相互理解の大切さなどについても教育をすることができます。」

# パヤタスごみ処分場周辺の支援活動 (マニラ首都圏ケソン市)

## <パヤタスの現状と課題>

ケソン市パヤタス地区の一角に、高さ30m、広さ十数haの巨大なごみ山がある。高くそびえるごみ山からは自然発火による煙や有害ガスが立ち込め、周辺の小川にはどす黒い汚れた水が流れ込んでおり、隣接する居住区「ルパン パガゴ」では、住民に呼吸器系や消化器系の疾病が多い。

同居住区にはゴミを捨てて生活する人々が約2千人暮らしている。これらの人々は、安定した職業につくことが難しく、やむをえず、ゴミを捨てている人が多い。

ICANは、劣悪な環境で暮らす人々の医療・栄養面を改善する医療支援事業と、ごみ拾いから脱却するための技術を身につける職業訓練事業、訓練で得た技術を収入につなげるフェアトレード支援事業を行っている。



背後にごみ山が迫る居住区

## 3. 医療支援事業 (通年実施)

### 1) 実施内容

「ルパン パガゴ」のうち最も厳しい環境にある第2地区(Phase2、住民数約6000人)において、SALTが運営するケアセンターを拠点に、以下の支援をSALTと共同で行った。

- a) フィリピン人医師による無料診療  
(毎週土曜日 年49回実施, 12月歯科診療)
- b) 無商標の薬を半額で提供する住民薬局  
(1~10月毎日, 11~12月土曜日販売)
- c) 栄養不良児のための栄養補給食、栄養指導  
(栄養補給食: 週3回、第1期2-4月, 第2期6-8月, 第3期10-12月  
栄養や家族計画や子育てに関するセミナー: 1, 5, 9月)



栄養改善の給食風景

2) 実施形態 現地スタッフが、住民ヘルプカー(SALT所属)、医師等と共同して実施。  
栄養指導では、子どもの親も食事の準備、片付けに参加。

3) 利用状況 診療受診者平均80名/月、薬局利用額平均3万円/月、栄養改善 述べ50組/年

4) 支出額	ICANの負担分	420,476円	(173,849PHP)
内訳	無料診療	121,125円	(50,080PHP)
	栄養改善(7-12月分)	80,320円	(33,209PHP)
	管理費(人件費, 住民ヘルプカー3名)	282,979円	(117,000PHP)
	(ケアセンター賃借料)	18,285円	(7,560PHP)
	(SALT負担分)	82,233円	(34,000PHP)

### 5) 次年度への課題

住民薬局は保健省の通達に従って年中無休・24時間対応で販売してきたが、11月に、食品薬品局が正規の薬局のライセンスが必要と判断したため、医師のいる土曜日のみ医薬品を販売することになった。現在、保健省の特別許可証を得られるように、他のNGOとともに、準備中である。

## 4. 職業訓練支援事業 (通年実施)

### 1) 実施内容

住民の女性が指導員になって、周辺住民を対象にした技能訓練のワークショップを開催した。ぬいぐるみ、服飾、ビーズアクセサリ、山岳民族の手織布を使ったハンディークラフトなどニーズに応じて個別のコースを実施した。指導員の技術向上のために、民間の職業訓練校(Nego Skwela)でトレーニングも行った。

2) 実施形態 日本人スタッフ1名、ボランティア5名、住民指導員数名が協力して実施。

### 3) 受益対象者の範囲及び人数

ワークショップ 述べ200名程度/21回

4) 支出額 311,820円(1ペソ=2.41863円で計算)

内訳	ワークショップ(謝礼、材料費等)	14,780円
	指導員の養成(講習費等)	53,680円
	訓練所賃貸料(含、改装、引越)	61,310円
	機材購入費(ミシン等)	182,050円

### 5) 次年度への課題

高度な技術を習得するために、同一の技術を長期に渡って受講する連続講座を開催する。



服飾の訓練を受ける女性達

## 5. フェアトレード支援事業(マニラ分) (通年実施)

### 1) 実施内容

訓練所に参加している女性の間で選挙が行われ、中核となるグループが結成された(12月現在15名が参加)。職業訓練で身に付けた技術を使って、収入を得られるように作業所の主体的な運営に取り組んでいる。最近では、製作品の材料の仕入れはもちろん、検品、買取りの作業、販売、労賃の設定も女性達自身で行われるようになった。10~12月に行われたバザーでの販売は、女性達に自分達の製作品を見つめ直す良い機会になり、自分達でやっていくのだという気持ちも芽生えた。着実に自立運営へ進んでいる。

2) 実施形態 日本人スタッフ1名、ボランティア5名、作業所の女性達15名が協力して実施。

### 3) 収支状況 (1ペソ=2.41863円で計算)

収入額	942,052円	
マニラでの売上	534,814円	(221,123.00 PHP)
日本への直送	407,117円	
雑収入	121円	(50.00 PHP)
支出額	1,796,790円	
女性達への労賃	838,099円	(346,518.25 PHP)
材料費	562,234円	(232,459.75 PHP)
作業所雑費	36,094円	(14,923.40 PHP)
小計(事業費)	1,436,427円	
管理費	360,363円	(148,994.75 PHP)
収支差額	-854,738円	

(差額は、日本での利益約70万円、スタツアの収益で埋めた)



販売は女性達の気づきの場所に、また、市民にバヤタスの現状を知らせる良い機会に

### 4) 次年度への課題

女性達の製作技術および運営力の向上  
フェアトレ単独での収支状況の改善

# サンイシロでの支援活動

## < 現状と課題 >

リザール州アンティポロ市の北30kmにあるサンイシロは、ドマガット族などの先住民が多数住む山村部の農村である。開発から取り残されたこの村では、電気も水もなく、医療も不足している。また、識字率の低さや教育が不十分であり、住民の多くは強い劣等感を感じている。主な収入は農業で得ているが、収穫期直前には食料が底を付くことが多く、現金収入の確保のためしばしば山で木の伐採が行われる。先住民が誇りを持って生きられるように、山村教育支援を行っている。

## 6. 山村教育支援事業 (通年実施)

### 1) 実施内容

先住民の子どもが学校教育を受け、先住民であることに誇りを持ち、より多角的な視点から将来社会に貢献できる人間になれるように、以下の支援を実施した。

(奨学金) 先住民の子弟、高校1年2人、小学校6年3人へ学費等を支援した。

(プレスクール) 未就学児童が通うプレスクールの運営を支援した。10月現在、4名が通っている。

(果樹木植樹) 将来、副収入を得るために、住居周辺に果樹やマホガニーの苗木を、住民の手で植樹した。(10家族)

### 2) 実施形態 住民組織MASAKAを通じた支援

### 3) 従業者数 コーディネータ, MASAKAスタッフ, 教師2名

### 4) 受益対象者の範囲及び人数 サンイシロ周辺に住むドゥマガット族を中心に170家族

### 5) 支出額 155,271 円 (64,197.95 PHP)

内訳	プレスクール支援	106,036 円	(43,841.20 PHP)
	奨学金支援	36,900 円	(15,256.75 PHP)
	家庭単位植林	12,335 円	(5,100.00 PHP)



先住民の住民組織 MASAKAとのミーティング



植樹したやしの木

## 7. スタディツアー交流事業

### 1) 実施内容

パヤタスやサンイシロを訪問して、現地の支援活動や貧しい人たちの現状を視察し、現地住民との交流と相互理解を深めた。パヤタスでは医療支援、職業訓練の見学、ショートステイ等を行い、サンイシロでは住民との交流会、ホームステイ、プレスクールの見学等を行った。また、帰国後に報告集を発行し、報告会を実施した。これらを通して、より多くの人と体験を分かち合う機会を持った。

2) 実施形態 当法人が企画、旅行代理店に委託して実施。

3) 従業者数 スタッフ2名、無償ボランティア5名

4) 実施時期と参加者 44名(引率者を含)/6回

第1回)	2月23日～3月5日	サンイシロ&パヤタス	8名参加	第2回)	3月16日～3月22日	パヤタス	7名参加
第3回)	3月20日～26日	パヤタス	11名参加	第4回)	7月21日～7月27日	パヤタス	5名参加
第5回)	7月26日～8月1日	パヤタス	3名参加	第6回)	8月24日～8月30日	パヤタス	10名参加

### 5) 収支状況

収入額	ツアー収入	4,846,976 円
支出額		4,562,339 円
旅行代理店への支払い		2,708,310 円
現地での交通費		272,768 円 (112,778.00 PHP)
現地での食費		286,518 円 (118,462.83 PHP)
現地での宿泊費等		247,588 円 (102,367.30 PHP)
謝礼		277,956 円
小計(事業費)		3,793,140 円
管理費等(人件費、通信費等)		498,699 円
未払い法人税		270,500 円
収支差額		284,756 円



ツアー参加者とパヤタスの女性達

## 8. 生活物資提供事業 (通年実施)

### 1) 実施内容

ミンダナオの小学校や支援団体、サンイシロのプレスクールなどに、文房具等の支援物資を郵送し、受入団体にて、特に学校関係の協力が多く、「文房具でこんなに喜んでくれるのなら協力したい」という日本の子ども達の声もあった。

2) 実施形態 物資の送付先を、当法人の調査によって決定し、物資を提供した。

3) 従業者数 有給スタッフ1名、無給ボランティア10名程度

4) 受益対象者の範囲及び人数 当法人が支援する事業地及びその周辺の住民、500名程

5) 支出額 現地までの送料 111,550 円

## 9. カード交流事業 (通年実施)

### 1) 実施内容

フィリピンの子どもたちとのカードの交換等を通じて、国際交流を深めることを目的に、7と11月の2回、多くの学校および一般の方のご協力を得て、現地の小学校などにカードを送付した。

2) 実施場所 日本国内及びフィリピンの関連団体

3) 実施形態 フィリピンでのカードの配布は、現地の提携団体及び学校が協力して実施。

4) 従業者数 有給スタッフ1名、無給ボランティア5名程度

5) 受益対象者の範囲及び人数 日本の一般市民200名及びフィリピンの児童300名

6) 支出額 現地までの送料 6,115 円

## 10. 開発教育事業 (通年実施)

### 1) 実施内容

フィリピンやアジアで厳しい環境にある人々の生活、児童労働の実情などについて多くの人に知って貰い、一般の方の国際協力に対する理解を深めるために、日本の小中高校生や一般の方、団体を対象に、以下の活動を行う。

- 講演・ワークショップの開催  
(小中高校8回、NPO関連イベント(4回))
- 教材作成(寸劇(ロールプレイ)、児童労働OHP等)
- タガログ語講座(毎週土曜日開催、年30回)
- 事務局への訪問者受入(平均10名程度/月)
- 教材貸出し(児童労働ビデオ、写真展「生きていくために」用写真等)



**総合的学習の授業風景**  
10名～800名まで様々な形態で協力

- 実施場所 NPOプラザなごや、国際センター、訪問先の学校他
- 実施形態 事務局スタッフ、ボランティア、訪問校、参加者が協力して実施
- 受益対象者の範囲及び人数 日本の一般市民 1000名程度
- 支出額 交流会等 6,000 円  
資料代等 19,917 円
- 次年度への課題

スタッフが単独で準備し学校訪問をすることが多かった。また、タガログ語講座は内部の勉強会的色彩が強かった。今後はより多くの方が参加できるように環境を整えたい。

### 2001年に行った国際理解ワークショップ例 (専従スタッフ松岡が担当)

#### 犬山中学 訪問(9～10月) ワークショップ

**コミュニケーション作り(アイスブレイキング)** フィリピンの文化紹介、食や言語、音楽に関連したクイズ  
**活動紹介と質疑応答** パヤタスごみ処分場の背景、ごみを拾って生計をたてるスカベンジャーの生活、医療支援、職業訓練等の紹介  
**寸劇(ロールプレイ)** オリジナル教材「スカベンジャー」の2つのシナリオを数名のグループに分かれて演じる。それを通じて、現地の人たちの思いを知り国際協力の意義を考える。  
**(シナリオ1)** スカベンジャーの日々の生活の現状  
**(シナリオ2)** 職業訓練を受けた人々の取組み  
**反省点:** 生徒間の意見の分かち合いや事前に調べた内容を発表する時間が少なかった。

#### 亀山高校 訪問(10月) 講演会

**内容:** 全学年800人に講演を行った。クイズ、現地訪問した高校生の現地報告、スタッフのICAN活動報告を行った。生徒自身の企画と報告という点で大変画期的だったと思う。  
**反省点:** 800人ではアイスブレイキングが難しい。改良の必要がある。現地報告・活動報告の内容もより充実させ、質疑応答を充分行った方が良い。

#### 六反小学校 訪問(11月) 勉強会

**内容:** 6年生11人と勉強会。ビデオ教材を使ったICAN活動紹介やフィリピンの児童労働の話、質疑応答を行った。調べ学習を行っていたということで、子ども達の関心もあり楽しい交流となった。

#### 参加した子ども達の声:

- 1) 貧しくても家族や友だちで仲良くして、フィリピンの人たちは優しいと思う。
- 2) 学校のすぐ近くにゴミ山があって、友だちが埋もれて死んでしまうなんて、酷すぎる。
- 3) 危ない目にも遭いながら1日ゴミを拾っても、僅かしか稼げないなんてかわいそう。
- 4) 日本の歌が現地の言葉でフィリピンで歌われていたのにはびっくりした。



# 11. フェアトレード事業（日本）（通年実施）

## 1) 実施内容

パヤタスの女性達の自立を支援するために、フェアトレードの意義をPRすることで多くの個人、学校や団体、お店等の協力を得て、女性達の製作した商品を日本で販売した。

- a. 個人のご協力 インターネットやボランティア貯金の機関紙などを通じて知って頂いた方々にご協力頂いた。
- b. 学園祭 & バザーでの販売 ICANが学園祭に出店した他、生徒会による文化祭での販売、非営利団体のバザーでの販売などにご協力頂いた。
- c. 委託店頭販売 愛知、三重、岐阜、東京など10店舗以上にご協力頂いた。

また、商品の管理表、経理、委託販売の仕組、関税処理、カタログ作成など、販売に必要な仕組を整備した。

## 2) 従業者数 スタッフ1名、理事1名、無償ボランティア5名、(協力校、協力団体、委託販売店)

## 3) 収支状況

収入額	1,033,737円
日本での売上	984,473円
雑収入(消費税等)	49,264円
支出額	336,900円
事業費	17,454円
管理費(送料、関税含)	319,446円
収支差額	696,837円

(この差額もマニラでの活動を支えている。)

## 4) 次年度への課題

パヤタスやICANの活動を紹介する資料、フェアトレードの意義を紹介するビデオを作成し、協力者に背景を知ってもらう。



国際協力イベントでの販売風景

## 2001年のフェアトレードのまとめ <マニラ分と日本分とをあわせたまとめ>

**<支出>** 全体40%が女性達の収入になっている。これに材料費および作業所の雑費を加えた事業費は約70%で、賃貸料、商品の送料、関税、支援する側の人件費等を含めて管理費は日本およびマニラを合わせても30%程度である。如何にフェアトレード事業が女性達の自立を支えるものであるかがわかる。

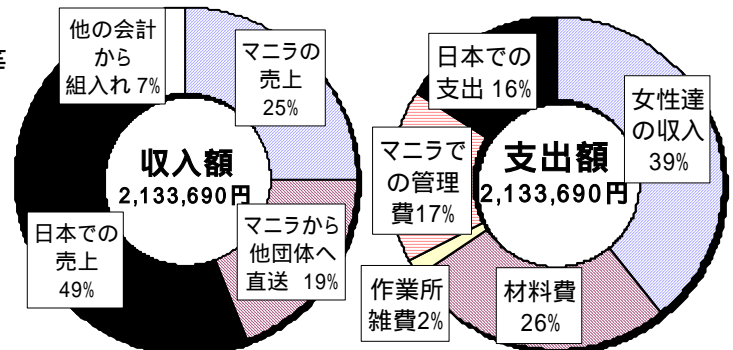
**<収入>** マニラから日本の他団体へ送付した分も含め約70%で、日本の方の協力で売上が確保できたことがわかる。マニラでの販売額は全体の25%である。

この割合はマニラでの物価水準を考慮すると、決して低くない。女性達の努力を反映した数字といえる。

**<収支>** 7%ほどの赤字であり、これをスタッフ等の他の事業収入で埋めている。この点が課題。ただ当初見込に比べ大幅に改善されている。

**<評価>** 女性達の頑張りを、マニラのスタッフ及びボランティアの方が支え、さらに、日本で、多くの方々に購入して頂いて支えられた良い活動となった。

**<次年度への課題>** 国際理解教育への反映、マニラでの収益性の改善



フェアトレード事業全体の収支状況

## 12. 事務局運営

### 1) 実施内容

法人の活動全般を支え、統括するために、以下の活動を行った。特に専従スタッフの雇用(2001年1月～)により、事務局体制は大幅に強化された。

- a. 事業計画、予算の立案、フォローアップ
- b. 日本で行われる各事業(開発教育、フェアトレード、カード、物資)の実施
- c. 会員、一般、学校、マスコミ等からの問合せ対応
- d. 資料の翻訳、まとめ、報告資料の作成(会報、事業報告書、総会資料)
- e. ボランティアおよびインターン、訪問者、訪問学生の受入れ
- f. 他団体(学校、法人、所轄庁、財団)との渉外
- g. 事務局ミーティング(月1回)および理事会(スタッフML, 常時)の開催
- h. 講師の派遣(児童労働、国際理解、法人運営、フェアトレード)
- i. 現地ボランティア希望者との面接

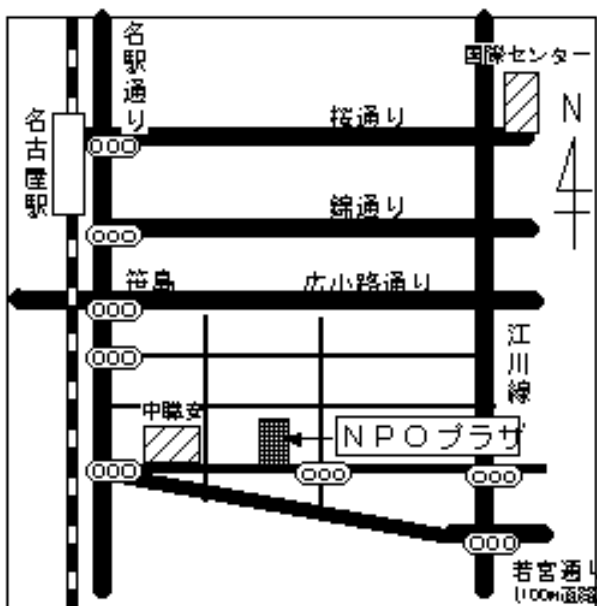
2) 活動日 通年(月・水・金・土、他必要に応じて)

3) 実施場所 NPOプラザなごや、国際センター、他

4) 従業者数 代表理事、事務局スタッフ1名、理事2名、無給ボランティア50名程度

5) 次年度への課題

ボランティアとして参加される方が主体的に活躍できる環境作り



← ICANの  
事務所は  
2F!

NPOプラザなごやの外観

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-20-11 NPOプラザ2F 南室 ICAN事務局  
TEL&FAX 052-582-2244, E-mail ican@jca.apc.org URL <http://www.jca.apc.org/ican/>

郵便振替口座 名義名) NPO法人 ICAN、口座番号 00850-6-78233

銀行口座 名義名) 特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター

口座番号) UFJ銀行 名古屋駅前支店 普通 2361021